

膀胱や子宮、直腸など、骨盤内に収まっている臓器が下がって腔から出てくる「骨盤臓器脱」。中高年を中心に多くの女性を悩ませている。婦人科と泌尿器科の境界にある疾患であることや、羞恥心のために受診をためらったり、受診しても「加齢によるもので治らない」との診断を受けたりするケースもある。また、疾患とは気付かず放置している女性も少なくないのが現状だ。現在では腹腔鏡などを使い、人工繊維のメッシュを骨盤の開口部に挿入して臓器を支える低侵襲で再発率の低い手術方法が導入されている。治療が進んで、生活の質（QOL）の向上を実感している女性が増えてきている。

## 女性悩ます「骨盤臓器脱」

### ■外出が苦手に

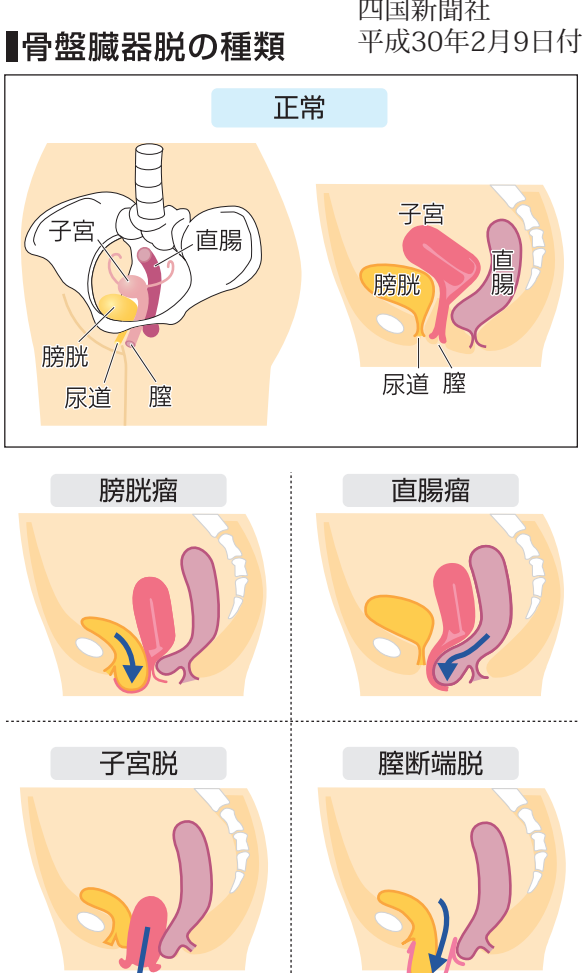
骨盤臓器脱の元患者が中心となって発足した「ひまわり会(事務局・大阪市)」によると、出産回数が多い、双子や大きな赤ちゃんを出産したことがあるなどのほか、加齢、閉経に伴う女性ホルモンの減少などによって出てくる臓器によって

# 再発少ない低侵襲手術も

KKR高松病院など 19日から無料電話相談

四国新聞社  
平成30年2月9日付

### ■骨盤臓器脱の種類



「膀胱瘤」「子宮脱」「直腸瘤」と呼ばれている。症状としては▽股に物がはさまっているような違和感▽頻尿や残尿感▽尿や便が出にくい▽脱出部位がずれて痛みやかゆみが生じたり、出血したりするなどが挙げられる。同会には映画館やバス旅行には行けない「恥ずかしくて誰にも

相談できず、家に引きこもっていた」などの意見が多数寄せられている。

### ■女性医師対応

2016年4月、医師や看護師らスタッフ全員が女性の「女性泌尿器科外来」を開設したKKR高松病院（高松市天神前）。周囲の目が気になる女性患者のため、外来中は男性の立ち入りを禁止し、完全予約制で対応している。

同病院によると、治療方法は大きく分けて保存的治療と手術の2種類。保存的治療は、ペッサリーというリングを腔内に入れて臓器を元の位置に押し戻す方法だ。最も手軽ではあるが、2、3カ月ごとにリングを交換する必要があるほか、違和感や痛みが生じるケースもある。症状が軽い場合は、サポート下着の着用や骨盤底筋のトレーニングなどで対応することもある。

手術で主流になっているのは骨盤臓器脱メッシュ手術（TVM）と16年4月に保険適用となった腹腔鏡下仙骨腔固定術（LSC）。TVMは、腔壁と飛び出している臓器との間にポリプロピレン製のメッシュシートを腔側より挿入し、骨盤内の靱帯などに固定する方法で手術時間は1・5〜2時間程度。LSCは腹部に数カ所の小さな穴を開け腹腔鏡を使って同様にメッシュを挿入する方法。TVMと比べ術後の痛みや出血などのリスクは下がるが高い技術が必要で、3〜4時間程度かかる。県内で初めてLSCを導入した同病院

**KKR高松病院女性泌尿器科**

19日(月)~23日(金)

午後2時から同5時まで

**087(861)3261(代表)**

※電話相談とお伝えください

では、これまでに50例を実施。患者へのQOL調査では「生活への影響」「睡眠」「心の問題」など全9項目で、術前より大幅に改善している。

■気軽に相談を

ひまわり会では19日から、連携している全国の病院とともに無料電話相談を実施する。県内ではKKR高松病院が初参加。23日までの5日間、左記の表の通り受け付ける。女性看護師が対応する。